

平成29年度日本語指導支援推進校事業

# 実践報告集

兵庫県教育委員会



# 目 次

## はじめに

### 1 本資料について

- (1) 日本語指導支援推進校事業について . . . . . 1
- (2) 本資料の活用について . . . . . 1

### 2 日本語指導について

- (1) 日本語指導とは . . . . . 2
- (2) 外国人児童生徒のためのJ S L対話型アセスメントD L A . . . . . 2
- (3) 特別の教育課程 . . . . . 2
- (4) 個別の指導計画（年間指導計画） . . . . . 2
- (5) J S Lカリキュラム . . . . . 3

### 3 各校の実践報告

- A 日本語指導
  - A-1 . . . . . 4
  - A-2 . . . . . 6
  - A-3 . . . . . 16
- B 国語
  - B-1 . . . . . 20
  - B-2 . . . . . 26
  - B-3 . . . . . 28
- C 算数・数学
  - C-1 . . . . . 36
  - C-2 . . . . . 40
  - C-3 . . . . . 44

## ◇ 参考

J S L参照枠（全体）とD L A（4技能）の評価例

## はじめに

グローバル化の進展等に伴い、兵庫県には現在、103,505人（平成29年6月末現在）の外国人の方々が暮らしています。公立学校に在籍する外国人児童生徒数は3,487人、そのうち、日本語指導が必要な外国人児童生徒は994人（平成29年5月1日現在）であり、近年増加傾向であるとともに、散在化傾向が進んでいます。

日本語指導が必要な外国人児童生徒にかかわる課題として、自尊感情やアイデンティティが育まれにくいという問題や、基礎学力が十分定着しておらず、進路に影響する問題などが生じています。

兵庫県教育委員会では、平成12年に「外国人児童生徒にかかわる教育指針」を策定し、外国人児童生徒の自己実現を支援するとともに、すべての児童生徒に国籍や民族等の「違い」を「違い」と認め合い、豊かに共生しようとする意欲や態度を育むなど、人権尊重を基盤に多文化共生社会の実現をめざす教育を推進しています。

平成28年度からは、県立神戸甲北高等学校、県立芦屋高等学校、県立香寺高等学校の3校において、外国人生徒の特別枠選抜を設けるとともに、小学校・中学校段階で、日本語（生活言語・学習言語）の習得と基礎学力の定着を図るため、「日本語指導支援推進校事業」を実施し、3市（姫路市、芦屋市、三木市）12校に日本語指導支援員を派遣しています。今後も、指導を受けた児童生徒が各教科及びその他の教育活動に日本語で参加し、主体的に学べるように、日本語指導支援員の指導力向上と校内連携の強化をめざし、研修等において指導内容や指導方法の工夫・改善、体制の整備を図りながら、さらに事業を充実させていきたいと考えています。

本資料は、平成29年度の日本語指導支援推進校の実践を抜粋してまとめたものです。各学校における日本語指導の充実に大いに活用されることを期待しています。

平成30年3月

兵庫県教育委員会

# 1 本資料について

## (1) 日本語指導支援推進校事業について

兵庫県教育委員会は、日本語指導が必要な外国人児童生徒に対し、実態に応じた日本語指導を推進し、日本語（生活言語、学習言語）の習得と基礎学力の定着を図るため、日本語指導支援員を派遣する市町に対して、経費の一部を補助する事業を実施しています。

平成 29 年度の推進校（姫路市・芦屋市・三木市）の実践を抜粋し、本資料にまとめました。なお、本資料に掲載されている事例については、その他の実践事例とともに子ども多文化共生センターのホームページにも掲載しています。

## (2) 本資料の活用について

日本語指導を行うためには、日本語指導が必要な児童生徒の日本語習得状況を把握し、個別の指導計画等を作成し、系統的・継続的な支援を行うことが大切です。そこで、各推進校は、「外国人児童生徒のための J S L 対話型アセスメント D L A」（平成 26 年文部科学省作成）等を用いて日本語能力測定を実施し、その結果を踏まえて日本語指導や教科指導を行っています。

下の表は、児童生徒の日本語習得状況と領域（日本語指導及び教科）を示しています。各推進校の実践を、表をもとに分類をしていますので参考にしてください。

日本語の学習段階	日本語能力の把握の方法	領 域			
	D L A (ステージ)	A 日本語指導	教 科		
			B 国 語	C 数 算 学 数	D そ の 他
学習段階 教科につながる	6	A-3	B-3	C-3	D-3
	5				
初期の後期段階	4	A-2	B-2	C-2	D-2
	3				
初期の前期段階	2	A-1	B-1	C-1	D-1
	1				

## 2 日本語指導について

### (1) 日本語指導とは

児童生徒が日本語を用いて学校生活を営むとともに、学習に取り組むことができるようにすることを目的としています。

#### ア 「日本語を用いて学校生活を営む」ことができる

日本の学校生活や社会生活について必要な知識を学び、日本語を使って行動する力を身につけることが主な目的となります。健康・安全・関係づくりなどの観点や、教科や文房具、教室の備品名など、学校生活で日常的に使う言葉（※「サバイバル日本語」と呼ばれることがあります）などについて、その児童生徒にとって緊急性の高いものから順に指導を行うことを目的とするものです。

具体的には、挨拶の言葉や実際の場面で使用する日本語の表現を練習したり、自分の名前を平仮名や片仮名で書いたり、教室に掲示されている文字を理解できるようにしたりすることなどが考えられます。

#### イ 「日本語を用いて学習に取り組む」ことができる

日本語で行われる在籍学級での授業に参加し、周囲の支援や様々な関わりを通して支障なく学習に取り組むことができることが主な目的となります。

基礎的な力としての発音、文字・表記、語彙、文型に関する指導や、例えば「書く」ことに焦点を絞って段階的な指導を行うなど、児童生徒の日本語の習得状況や、学習の進捗状況に合わせて指導計画をたてる必要があります。

### (2) 外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA

日常会話はできるが、教科学習に困難を感じている児童生徒を対象とし、言語能力を把握すると同時に、教科学習支援のあり方を検討するための資料として開発されました。

いわゆる従来型の紙筆テスト等とは異なり、テストから得られる結果を序列化するためのものではなく、テストの実施過程そのものを、学びの機会として捉えるところに特徴があります。そのため、テストの実施を指導者が児童生徒に向き合う大切な機会（対話重視）であるとし、「対話型」を基本としています。指導者と子どもが対面で向き合うことで、日頃の学習の成果や今後の支援活動で必要となる学習内容・学習領域を絞り込んでいく上で、必要な情報を得ることができます。

### (3) 特別の教育課程

帰国・外国人児童生徒等に対する日本語指導を一層充実させるため、「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」により、当該児童生徒の在籍学級以外の教室で行われる指導について「特別の教育課程」を編成・実施することができるようになりました。

「特別の教育課程」による日本語指導は、児童生徒が日本語を用いて学校生活を営むとともに、学習に取り組むことができるようにすることを目的とし、在籍学級の教育課程の一部の時間に替えて、在籍学級以外の教室で行います。

### (4) 個別の指導計画（年間指導計画）

児童生徒一人一人の実態に応じて「特別の教育課程」を編成し、きめ細かな日本語指導を行うためには、個々の児童生徒の日本語能力や学校生活への適応状況も含めた生活・学習の状況、学習への姿勢・態度等の的確な把握に基づき、指導の目標及び指導内容を明確にし、指導計画を作成することが必要です。

個別の指導計画では、個の日本語習得状況に応じて「技能別（聞く・話す・読む・書く等）」及び「各教科」の日本語指導の目標を学習段階や單元ごとに設定して、指導の充実に活かしていきます。文部科学省のホームページには様式が掲載されております。

## (5) J S Lカリキュラム

J S L (Japanese as a second language) カリキュラムは、日本語の力が不十分なため、日常の学習活動についていけない外国籍の（日本語を第二言語とする）生徒の授業に参加するための日本語の力と学ぶ力（「日本語で学ぶ力」）を育成することを目的としたモデル・カリキュラムです。

平成 15 年度に小学校編、平成 18 年度に中学校編が文部科学省から刊行されています。

### ■参考資料

#### 1 文部科学省

海外子女教育、帰国・外国人児童生徒教育等に関するホームページ

『CLARINET へようこそ』[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet)



#### 2 子ども多文化共生センター（兵庫県教育委員会）

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~mc-center/>



### 3 各校の実践報告



## 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

### 【領域：A-1】

#### 1 児童生徒の日本語習得状況（平成29年5月9日）

DLAステージ	1
---------	---

#### 2 児童の実態

①学年（小）：第2学年

②国籍及び母語：ブラジル・ポルトガル語

③在留期間：101ヶ月

④日本語習得状況及び学習状況

- ・ひらがなをいくつか読み書きすることができる。
- ・聞きなれた言葉を組み合わせ、自分自身のことや身近な出来事について主に単文を使って話すことができる。
- ・日常生活でよく使われる語彙・表現を聞いて、ほぼ理解することができる。
- ・話したことに対して質問するが、それに答えることは難しい。
- ・1時間着席して学習することがかなり難しい。

#### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○日本語指導 「ひらがなを学習しよう」

#### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・日常生活で話すものの名前のひらがな表記を知る。
- ・聞き取った単語の中から決められた音の有無がわかる。
- ・単語のモーラ数を数えることができる。

#### 5 指導内容の概要

※別紙参照

#### 6 指導における工夫点・学習の成果

- ・本児の好きな動物の図鑑を使って言葉集めをすることで意欲を高めている。
- ・プリント学習で○をもらうことで達成感をもつことができている。

#### 7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・自作ノート
- ・読み書きが苦手な子どもへの〈基礎〉トレーニングワーク（明治図書）

(別紙)

第2学年 日本語指導 学習指導案

1 題材 ひらがなを学習しよう

2 児童の実態

日常会話程度は話すことができる。しかし、話したことに対して質問しても、それに答えることは難しい。写し書きはできるが読み書きはかなり難しい。ひらがなが少しわかる程度である。1時間着席して学習することもできないため、一斉指導で学習することが難しい。

3 目標

ひらがなの読み書きができるようになり、一斉指導での学習に参加できるようになる。

4 本時の目標

ひらがなに興味をもち、読んだり、書いたりしようとするができる。  
物の名前がひらがなで書けることに気づかせる。

5 展開

学習活動	指導上の留意点	備考
1 学習するひらがなを決める。	・好きな言葉を考えさせ、その中から今日学習するための未習の文字を決めさせる。 ・学習するひらがなの言葉を考えさせたり、図書室の本から探させたりすることで、書くことに意欲をもたせる。	図書室の本
2 思いついた言葉や本の中からノートに書く言葉を探す。	・本と一緒に見ながら、興味をもったものの名前を知らせる。 ・ホワイトボードに言葉を書いてみせることで物の名前がひらがなで書けることに気づかせる。 ・自分の選んだ言葉でノート作りをすることでひらがなを書くことへの意欲をもたせる。	ホワイトボード ノート
3 ノートにひらがなを書く。	・本時で学習する文字がいろいろな言葉で使えることを知ることで、文字を覚えることへの意欲をもたせる。	
4 学習プリントをする。	・単語の中から決められた音の有無を確認させる。 ・単語のモーラ数を数えさせる。	わくわくプリント

## 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

### 【領域：A-2】

#### 1 児童生徒の日本語習得状況（平成29年7月3日）

DLAステージ	1
---------	---

#### 2 生徒の実態

①学年（中）：第1学年

②国籍及び母語：ベトナム・ベトナム語

③在留期間：6ヶ月

④日本語習得状況及び学習状況

- ・ひらがな・カタカナはほぼ習得している。漢字については小学1年生まで習ったが、家庭学習の習慣がなく、定着は困難である。
- ・家庭での会話はベトナム語であり、日本語の習得の場は学校内に限られている。日常会話については、話すことも理解することもまだ難しいが、片言の日本語で教師や友達に少しずつ話しかけることができるようになってきた。

#### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○日本語指導：かいものごっこ（こどものほんご① 10課）

#### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・買い物をする場面から、日本語の表現や助数詞を学習し、実際の生活の中で使うことができる。

#### 5 指導内容の概要

- ・話すこと・聞くことを中心に、日常生活に寄り添った内容で日本語の表現や会話を練習させる。
- ・身のまわりの物や食べ物などの名詞、助数詞もあわせて習得させる。

#### 6 指導における工夫点・学習の成果

##### 工夫点

- ・話し方と同時に物の名前も覚えられるよう、絵カードの裏に名前を書いておいた。
- ・お客役、店員役のどちらも体験させ、代金、おつりの計算も自分でさせ、いろいろな言葉や数（値段）を言えるようにした。

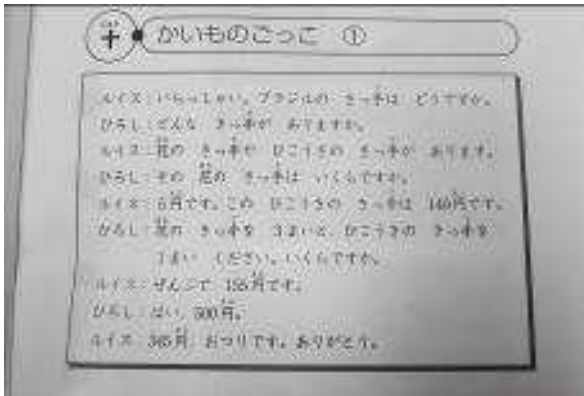
##### 成果

- ・店員役、お客役を演じることにより、これまでに学習した日本語の表現を使って伝えようとする積極的な態度が見られた。
- ・読み書きや、会話練習時よりも意欲をもって学習に参加することができ、習った内容だけでなく、応用して自分で表現しようとする姿が見られた。

## 7 教材・教具（開発教材も含む）

### ・こどものにほんご①

（ひょうご日本語教師連絡会議 子ども日本語研究会 著）



かいものごっこ

（こどものにほんご① 10 課）

物の名前と値段を書いたカード

## 8 活動の様子

- ①前時までに習った「お金・物の数え方」や「どんな～をください」などの買い物をするときの表現を復習したあと、店員役、お客役になり、買い物ごっこをした。「いらっしゃいませ」「～を～個ください」と役になりきって、大きな声で楽しく活動することができた。
- ②授業を参観した教師にもお客役になってもらうことにより、これまでに習った日本語をより積極的に使おうとする態度が見られた。金額の言い方も練習しているうちに上手に言えるようになった。
- ③おつりが出せない場面では「両替」という言葉や「ちょうど」「まちがい」などの未習の言葉も子ども多文化共生サポーターによる母語支援によって意味を理解することができた。例文にない会話のやり取りも真似て使おうとする姿が見られた。
- ④合計金額やおつりの金額がまちがっていないか黒板に積算をして確かめた。実際の生活の中でも、金額を確認することの大切さを実感させることができた。
- ⑤これまでの会話練習では、声が小さいことがあったが、本授業では大きな声で発音できるようになった。これからも積極的に日本語を使おうとする意欲をもたせることができた。



(別紙)

第1学年 日本語指導学習指導案

1. 題材 「かいものごっこ」

2. 生徒の実態

来日してまだ日が浅く、日本語であいさつ程度の会話は出来るが、家族は日本語がほとんど話せない。家庭ではベトナム語での生活であり、日本語にふれる機会は学校内に限られている。

現在、ひらがな・カタカナはほぼ習得しているが、既習の小学1年生の漢字は、まだ定着していない。

対象生徒は自分の意志や質問などを相手に伝えようと、前向きな姿勢がうかがえる。

3. 目標

日本語での表現の仕方や会話を、「買い物」という(疑似)体験を通して学習し、生活で生かすことができる。

4. 指導計画(6時間)

第1時 お金の数え方「～円です」、たずね方「いくらですか」

第2時 順番「～番」、「～があります」

第3時 物の数え方(助数詞)

第4時 種類・様態「どんな～」

第5時 「なんこありますか」、「～ずつ」

第6時 かいものごっこ(本時)

5. 本時の目標

既習の日本語表現を用いて買い物ごっこを体験し、実生活で生かせるようにする。

6. 準備物

こどものにほんご①、こどものにほんご練習帳、ベトナム語辞書、絵カード、かいものごっこ用お金セット

7. 展開

学習活動	指導上の留意点	備考
<p>1. 前時の復習をする。            お金・物の数え方            「どんな～」など</p> <p>2. 本時の課題を把握する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時まで学習した言い方や表現を思い出させる。</li> <li>・間違った言い方があれば、直す。</li> </ul>	<p>絵カード</p> <p>お金セット</p>
<p>かいものごっこをしよう（果物屋・八百屋・日用品店）            「(どんな) (何)を(いくつ)ください」            「いくらですか」</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・店員役、お客役になり、日本語で買い物ごっこをする。</li> <li>・既習の言い方を使って、会話しながら行う。            「(どんな) (何)を(いくつ)ください」            「いくらですか」            「～円です」            「ありがとうございました」</li> </ul> <p>3. 本時の振り返りをし、次時の学習予定を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェスチャーを交えても良いが「これ」や「あれ」など指さしだけの買い物ではなく、必ず商品名を含め会話するように促す。</li> <li>・生活に密着した品物で練習し、物の名前や助数詞も同時に覚えさせる。</li> <li>・名前が分からない物でも買えるよう、絵カード(裏)にはひらがなで名前を書いておく。</li> <li>・お互いの会話の内容がしっかり聞き取れるようにゆっくり話させる。</li> <li>・「電話」という身近な題材で日本語の会話を練習することを確認させる。</li> </ul>	<p>ベトナム語辞書</p>

## 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

### 【領域：A-2】

#### 1 児童生徒の日本語習得状況（平成29年5月1日）

DLAステージ	3
---------	---

#### 2 生徒の実態

- ①学年（中）：第2学年
- ②国籍及び母語：ベトナム、ベトナム語
- ③在留期間：13ヶ月
- ④日本語習得状況及び学習状況

日本語の日常会話は十分にできるが、漢字や難しい言葉は理解しにくい。英語ではベトナム語のアルファベットと英語とを混同してしまい、読みや意味など十分に習得できないでいる。他の教科でも日本語の理解が困難で十分に力を発揮できないでいる。

#### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○日本語指導：ぼんおどり

#### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・～して います。（動作の進行）
- ・～が（教科/行事）あります。

#### 5 指導内容の概要

- ・「～して います」は動作しやすい動詞を選んで練習する。また、学習者といっしょに行動しながら教える。
- ・「だれが～」の質問に対して「～が」で答える。
- ・疑問詞の前の主語は「～は」になる。

#### 6 指導における工夫点・学習の成果

##### 工夫点

- ・達成感を味あわせる学習を取り入れる。
- ・日本語学習の中で、日本の文化だけでなく母国の歌や食べ物などについて話す機会を多くもつことで、自信をもたせる。
- ・言い間違えた時は、その都度正しく直して練習をする。

##### 成果

- ・学習場面で、質問に答えるだけでなく自分から尋ねたり、自分の思いを積極的に話したりできるようになってきた。
- ・日本語指導の時間だけでなく、クラスでもコミュニケーションをとろうとする態度が見られるようになってきた。

#### 7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・こどものにほんご2（ひょうご日本語教師連絡会議 子ども日本語研究会著）

## 8 活動の様子



授業の様子



使用した教材



ノートの工夫



(別紙)

第2学年 日本語指導学習指導案

1 題材 ぼんおどり

2 生徒の実態

在留期間が13ヶ月と短く、自分自身のことや身近な出来事について、聞きなれた言葉を組み合わせて短文を使って話す。また日常生活でよく使われる語彙の意味が分かる程度で、会話の流暢度は低い。それは、動詞や形容詞の活用が難しいということが理由の一つとして考えられる。そのため、文法などの活用の仕方を繰り返し学習し定着させ、自分の意志や相手に伝えるべき内容を日本語で表現できるようにさせたい。

3 目標 日常生活でよく使われている語彙や表現を理解して会話ができる。

4 指導計画(2時間)

第1時 ・～ています。(動作の進行) ・～が(教科/行事)あります……本時

第2時 ・～ています(身に付けていることを表す) ・知っています

5 本時の目標

・「～ています」は動作しやすい動詞を選んで練習し、「だれが～」の質問に対し「～が」で答えることができるようになる。

6 準備物 本時のプリント、ベトナム語辞書、動詞一覧表

7 展開

学習活動	指導上の留意点	備考
1 前時の復習をする。 ・～て(軽い依頼) ・～から(順接) ・～けど(逆説)	・活用の仕方を思い出させる。 ・例文をいくつか挙げ、スムーズに活用できるようにする。	動詞一覧表
2 本時の課題を把握する。 ・テ形+います (書きます、泳ぎます、飲みます、 読みます、運びます など) ・誰が を導入する。 (ルイスくん、ひろしくん、ゆかちゃん など) ・何を 導入する。 (ニュース、新聞、宿題、ごはんなど) ・～が あります	・日本語の意味の分かりにくい言葉は、ベトナム語に訳したり、ジェスチャーを加えたりする。 ・初めはゆっくりと復唱させ、慣れてきたら自分で読ませる。 ・それぞれの品詞に分けて繰り返し練習させる。 ・身近な日常生活によく出てくる内容で練習させる。	本時のプリント ベトナム語辞書
3 本時の振り返りをし、次時の学習予定を知る。		

## 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

### 【領域：A-2】

#### 1 児童生徒の日本語習得状況（平成29年4月26日）

DLAステージ	4
---------	---

#### 2 生徒の実態

①学年（中）：第3学年

②国籍及び母語：ベトナム、ベトナム語

③在留期間：20ヶ月

④日本語習得状況及び学習状況

- ・日常会話に困ることはほとんどない。語彙量の不足から言葉の意味や使い方がわからないことが多々あり、説明を要する。
- ・自分の思いや考えを、例文を見ながら表現することはできるが、自力では難しい。

#### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○日本語指導：ひなまつり

#### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・～のに（逆説）
- ・～と いうのは（内容説明）

#### 5 指導内容の概要

- ・「～けど」と違い、「～のに」には期待外れや予想外という気持ちが含まれる。またナ形容詞と名詞の接続の仕方が「～なのに」となることに注意する。
- ・「と いうのは」は友達同士の会話では「～って」の形になる。  
※指導案または指導の流れを別紙にて添付

#### 6 指導における工夫点・学習の成果

##### 工夫点

- ・日常生活でよく使う言葉を使って、イメージしやすいようにした。
- ・言い間違えた時は、その都度正しく直して練習をする。
- ・ベトナム語ではどう表現するのかを聞くことにより、日本語の意味を理解しやすくした。

##### 成果

- ・既習の文を自信をもって音読することができるようになった。
- ・日本語指導の時間だけでなく、クラスでもコミュニケーションをとろうとする態度が見られるようになってきた。
- ・家庭学習を自ら進んでできるようになった。

7 教材・教具（開発教材も含む）

・こどものにほんご2（ひょうご日本語教師連絡会議 子ども日本語研究会著）

8 活動の様子



日本語指導支援員とともに



使用した教材

(別紙)

第3学年 日本語指導学習指導案

1 題材 ひなまつり

2 生徒の実態

在留期間が20ヶ月と短いため、単語の並び順や見出し語を理解して辞書を活用したり、基本的な構成を理解して中1程度の漢字を使って書いたりすることはできるが、会話の流暢度は低い。それは、動詞や形容詞の活用が難しいということが理由の一つとして考えられる。そのため、文法などの活用の仕方を繰り返し学習し定着させ、自分の意志や相手に伝えるべき内容を日本語で表現できるようにさせたい。

3 目標 日常生活でよく使われている語彙や表現を理解して会話ができる。

4 指導計画(2時間)

第1時 ・～のに(逆説)～と いうには(内容説明)……本時

第2時 ・～て います(自動詞で状態を表す) ・～て おきます

・～みたいな/みたいに(比喩)

5 本時の目標

・「～けど」と違い、「～のに」には期待外れや予想外という気持ちが含まれる。

またナ形容詞と名詞の接続の仕方が「～なのに」となることに注意する。

・「と いうのは」は友達同士の会話では「～って」の形になる。

6 準備物 本時のプリント、ベトナム語辞書、動詞一覧表

7 展開

学習活動	指導上の留意点	備考
1 前時の復習をする。 ・～そうです(伝聞) ・～のは(強調)	・活用の仕方を思い出させる。 ・例文をいくつか挙げ、スムーズに活用できるようにする。	動詞一覧表
2 本時の課題を把握する。 ・～のに(動詞) (読みます、言います、聞きます など)  ・～のに(イ形容詞) (ねむい、むずかしい、いそがしい、おもしろい など)  ・～のに(ナ形容詞、名詞) 「ナ形容詞+なのに」 (大切、しずか、すき、上手 など) 「名詞+なのに」 (天気、病気、誕生日 など)  ・～と いうのは	・日本語の意味の分かりにくい言葉は、ベトナム語に訳したり、ジェスチャーを加えたりする。  ・初めはゆっくりと復唱させ、慣れてきたら自分で読ませる。  ・それぞれの品詞に分けて繰り返し練習させる。  ・身近な日常生活によく出てくる内容で練習させる。	本時のプリント ベトナム語辞書
3 本時の振り返りをし、次時の学習予定を知る。		

# 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

## 【領域：A-3】

### 1 児童生徒の日本語習得状況（平成29年6月1日）

DLAステージ	ステージ5
---------	-------

### 2 児童の実態

- ① 学年（小）：第1学年
- ② 国籍及び母語：フィリピン・フィリピノ語
- ③ 在留期間：68ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

生活言語は理解しているが、相手が速く話すと理解できない。学習言語については、授業で学びきちんと理解をして積み上げている。

### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○国語：日づけとよう日  
日本語指導：正しく読もう

### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

特別な読み方を知り、日づけを正しく読む。  
言葉のまとまりをつかみ、正しく読んだり書いたりする。  
新しい漢字を覚える。

### 5 指導内容の概要

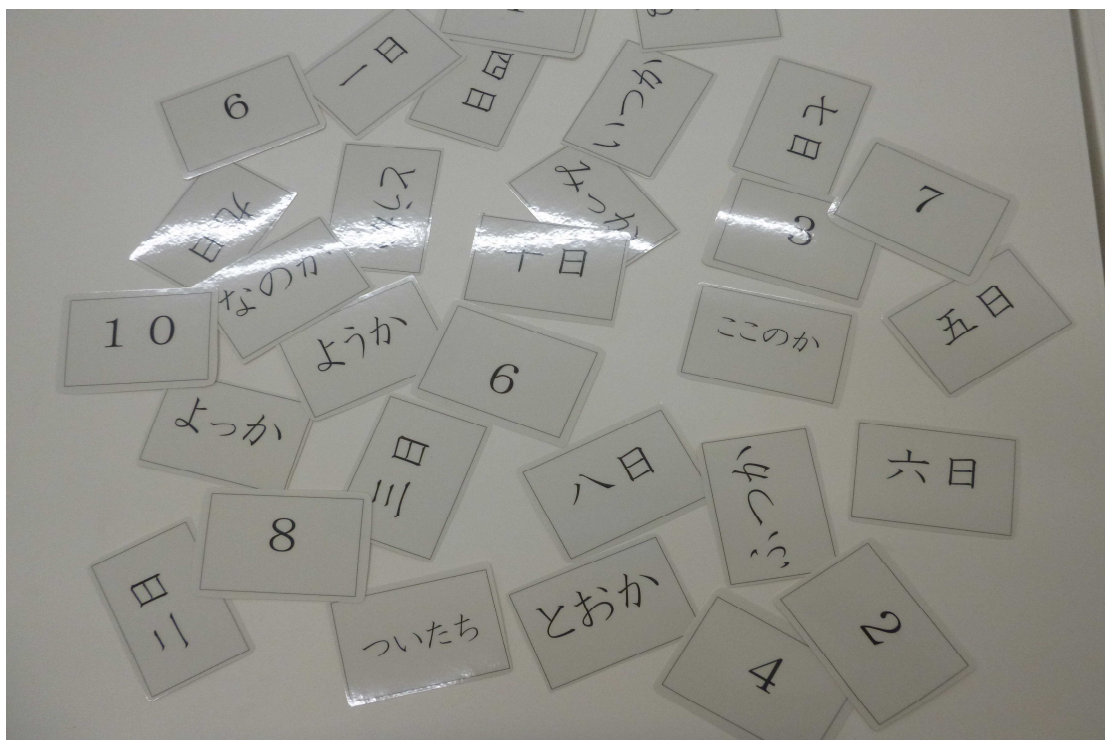
- ・日づけの歌を唱えたり、カードゲームをしたりして、楽しく正しく覚える。
- ・ひらがなばかりの文を漢字に直し、正しく書く。

### 6 指導における工夫点・学習の成果

この児童は、「さ行」や「ら行」の発音を正しく読むことが難しい。言葉によっては正しく発音しているが、「です」が「でしゅ」になるなど舌の使い方がうまくできていない状態である。そこで、見て音読するだけでなく、聞いて音読することで正しい発音を耳から学ぶことができると考えた。本時だけでは、成果はあまり見られないが、今後も継続的に取り組むことで成果を出していきたい。また、ゲームを取り入れることで、楽しく読んで覚えることができた。

### 7 教材・教具（開発教材も含む）

開発教材  
漢字・読み・数字のマッチングカード



作成したカード

## 8 活動の様子

全体を通して、集中して最後まで活動できていた。「ついたち」は「ちゅいたち」になるなど正しく発音しにくそうなこともあったが、正しく速く正解しようと意欲的に取り組んでいた。

マッピングカードゲームでは数字・漢字・読みを合わせ、理解を進めることができた。ゲームする中で、自然と読みも定着しているようだった。集中がとぎれそうなときに効果的な教材でもある。

漢字を正しく書く学習では、前段階で読みが定着している所以、漢字の形だけでなく読みを唱えながら書く場面も見られ、最後の活動にして良かった。

(別紙)

## 第1学年国語科学習指導案

1 単元名 日づけとよう日のよみかたやかきかたをしよう

教材名 日づけとよう日 (光村図書 1年下)

2 単元目標

日づけとよう日を正しく読み、書くことができる。

3 単元の評価規準

(1) 日づけの特別な読み方や曜日の読み方を知り、正しく読むことができる。(読)

(2) 日づけや曜日を正しく書くことができる。(書)

4 単元の指導計画(全2時間, 本時1時間目)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準【 】 評価方法( )
一	1	・日づけについて、正しい読み方を知り、書く。	・楽しく覚えられるよう、ゲームを取り入れる。 ・語句の意味やまとまりに気づかせる。	・日づけを正しく読んでいる。【読】(発表)
	2	・曜日について、正しい読み方を知り、書く。 ・曜日の歌をつくる。	・自己表現を大切に扱い、認める。	・曜日を正しく書くことができる。【書】ワークシート

5 本時の目標

○ワークシートを見て、麦の変身について説明文を書くことができる。

6 本時の展開(第一次 第1時)

学習活動	指導上の留意点	評価規準【 】 評価方法( )
1. 既習事項、漢字の一～十について確認をする。 2. 本時の学習のめあてを確認する。	・間違っても、もう一度機会を作り、励ます。	
<b>日づけをおぼえよう!</b>		
3. 日めくりカレンダーを見せ、日づけを読む。 4. 教科書の日づけ歌を楽しく唱える。	・特別な読み方を意識させる。 ・教科書を見ずに、お手本を聞いて唱えさせる。	・正しく読むことができる。【読】(発表)

	<p>5. 漢字・読み方・数字のマッチングゲームをする。</p> <p>6. 一日から十日まで漢字で書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語句のまとまりに○でかこませ、まとまりを意識させる。</li> <li>・ 「とうか」「とおか」を間違いやすいものをカードにして、正しい認識を促す。</li> <li>・ 書きやすい大きさの枠を用意する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語句のまとまりに気づくことができる。(教科書)</li> <li>・ 正しい読み方・漢字を理解している。【読】(発表)</li> <li>・ 正しく書くことができる。【書】(ワークシート)</li> </ul>
--	---	--	--



# 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

## 【領域：B－1】

### 1 児童生徒の日本語習得状況（平成29年5月16日）

DLAステージ	ステージ2
---------	-------

### 2 児童の実態

① 学年（小）：第1学年

② 国籍及び母語：ボリビア・スペイン語

③ 在留期間：13ヶ月

④ 日本語習得状況及び学習状況

- ・簡単な生活言語は使える。よく話すが、意味がわからないまま周りの人の言葉をまねているので、伝わらないことが多い。
- ・ひらがなの読み書きはできるが、片仮名・漢字はまだ定着していない。既習の物語文はある程度読めるが、初めての文章はほとんど読めない。日記や作文はかなり支援が必要である。

### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

第1学年国語 ことばって、おもしろいな 「ものの名まえ」

### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・教材文を読み、挿絵と文章を照応させながら読むことで、「上位概念語・下位概念語」の関係を知る。例えば、「上位概念語・くだもの」には「下位概念語・りんご、みかん、バナナ等」があることを知る。
- ・「上位概念語」・・・「くだもの」「やさい」「さかな」「がっき」「はな」「おかし」「ぶんぼうぐ」などを教え、「下位概念語」と絵カードを結びつけながら物の名前を増やす。
- ・「おみせやさんごっこ」の活動を通して上位語・下位語に対する理解を深める。
- ・「おみせやさんごっこ」を通して、お店でのやり取りの仕方に沿って、適切な話し方や聞き方を考え使えるようにする。「こんにちは。」「いらっしゃい。」「ありがとうございます。」「〇〇を何個ください。」「何円ですか。」「太い大根をください。」など挨拶や名数やお金概念や形容詞などを使えるようにする。

### 5 指導内容の概要

- ・「ものの名まえ」を読む。
- ・挿絵を見ながら何屋さんかを考える。
- ・上位語（一つ一つのものを、まとめてつけた名まえ）と下位語（一つ一つの名まえ）について理解する。
- ・身の回りにある上位語を教え、絵カードを使いながら下位語を集めノートにまとめる。
- ・「おみせやさんごっこ」の準備をする。

- ・開きたい店を決める。
- ・看板・売る品物の絵・名前のカード・品物の値段カード等を作る。
- ・お店の人、お客の話し方の練習をする。
- ・「おみせやさんごっこ」をする。
- ・「おみせやさんごっこ」の感想を書き発表する。

#### 6 指導における工夫点・学習の成果

- ・絵カードを使い、カルタ形式やクイズで楽しみながら物の名前を覚えた。
- ・下位語集めの際、日本の物だけではなく母国の物の名前なども入れたことで意欲的に取り組めた。
- ・取り出し指導であるため、他学年の外国人児童も加わることで「おみせやさんごっこ」の活動で日本語を多く話す機会がもてた。
- ・「おみせやさんごっこ」の感想を、友だちだけではなく職員室の前で発表する機会を持った。普段から学習の感想を発表しているので、少しずつ自信をもって話せるようになってきた。

#### 7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・絵カード（動物・食べ物・やさい・生活道具・反対言葉・あいさつ）
- ・ホワイトボード（苦手な漢字や言葉を書きとめ、すぐに反復練習）
- ・名数のプリント
- ・広告のチラシ

## 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

### 【領域：B－1】

#### 1 児童生徒の日本語習得状況（平成29年5月26日）

DLAステージ	2
---------	---

#### 2 児童の実態

①学年(小)：第4学年

②国籍及び母語：ベトナム・ベトナム語

③在留期間：日本生まれ 長期帰国あり 47ヶ月

④日本語習得状況及び学習状況

家庭では、ベトナム語で生活しており、日本語に触れる機会は学校に限られている。また、ベトナムに長期帰国していたため、文字の習得に遅れが見られる。ひらがなやカタカナは定着してきたが、漢字は厳しい状況である。家庭学習ができないので、日本語習得は学校に限られている。長期の休みが入ると学習したことがもとに戻ってしまうことが多く、既習学年の日本語習得の積み上げが難しい。

#### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○国語科：ヤドカリとイソギンチャク(東京書籍 上巻)

#### 4 本単元(本教材)の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・段落のつながりを考えて読み、文章のまとまりをとらえる。
- ・文章の中から、問いの段落と答えの段落を見つける。
- ・問いや答えに使われる言葉を理解する。
- ・話題が変わるときに使う言葉を理解する。

#### 5 指導内容の概要

※別紙参照

#### 6 指導における工夫点・学習の成果

(工夫点)

- ・挿絵を使った。
- ・ワークシートを使ってまとめた。
- ・大切な言葉に線を引かせた。

(成果)

- ・挿絵を使うことによって、言葉だけではわかりにくい部分を補うことができ、内容理解の手助けになった。
- ・ひとりではまとめられないので、ワークシートに書き込んでまとめていくと内容が理解できた。

7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・教科書
- ・挿絵
- ・ワークシート

8 活動の様子



共同的に学ぶ様子

(別紙)

第4学年 日本語指導（JSL国語科）学習指導案

1. 単元 ヤドカリとイソギンチャク

2. 対象児童の実態

支援児童は、在籍学級の国語と算数の時間に、ワールドルームで取り出している。複数学年が一度にやって来るので日本語指導担当教員と支援員が役割分担をして支援を行っている。

A児 国籍（ベトナム）母語（ベトナム語）日本生まれ 長期帰国あり	
日本語力	<ul style="list-style-type: none"><li>・日本生まれだが、ベトナムの祖父母に長期間預けられていたため、日本語での日常会話や学習の場面での会話がまだ十分ではない。</li><li>・ひらがなやカタカナは定着しているが、漢字は厳しい状況である。</li><li>・日本語の中の使える語彙は生活言語に限られている。</li><li>・日本語の構文や約束事はほとんど理解していない。</li></ul>
B児 国籍（ベトナム）母語（ベトナム語）日本生まれ 長期帰国あり	
日本語力	<ul style="list-style-type: none"><li>・日常会話や学習の場面での会話はでき、読み書きはなんとかできる。</li><li>・日本語の中の使える語彙は生活言語に限られている。</li><li>・日本語の構文や約束事はほとんど理解していない。</li></ul>
C児 国籍（ベトナム）母語（ベトナム語）日本生まれ	
日本語力	<ul style="list-style-type: none"><li>・日常会話や学習の場面での会話はでき、読み書きはなんとかできる。</li><li>・日本語の中の使える語彙は生活言語に限られている。</li><li>・日本語の構文や約束事はほとんど理解していない。</li></ul>

3. 目標

国語科	<ul style="list-style-type: none"><li>・段落のまとまりに気を付けて読む。</li><li>・「問い」と「答え」に気を付けて読む。</li></ul>
日本語	<ul style="list-style-type: none"><li>・「問い」「答え」に使われる言葉を理解する。 なぜ、～でしょう。～でしょうか。どうやって。</li><li>・話題が変わるときに使われる言葉を理解する。 では、さて、ところで、実は</li><li>・順序を表す言葉を理解する。 まず 次に</li></ul>

4. 本時の目標

「問い」と「答え」の関係をとらえ、ヤドカリがイソギンチャクを移す方法を読み取ることができる。

5. 学習活動

児 童 の 活 動	教 師 の 支 援	備 考
<p>1. 教科書を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・段落ごとに読む</li> <li>・前時をふりかえる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文を指さしながら読んでいるか確認する。</li> <li>・挿絵を使って、内容を発表させる。</li> </ul>	<p>教科書 挿絵</p>
<p>2. ⑦段落の「問い」を見つける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問いに使われる言葉を確認する。</li> <li>・見つけた問いに線を引かせる。</li> <li>☆「では」「どうやって」に着目させる。</li> </ul>	
<p>3. ⑧、⑨段落を読み、何が書いてあるか読み取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・⑧⑨段落を一緒に読み、内容を確認する。</li> <li>・挿絵を使って、ヤドカリがイソギンチャクをどのようにして自分の貝がらにうつすのか順番におさえる。</li> <li>☆動作化をさせて、内容をとらえさせる。</li> <li>☆挿絵を並び替えさせる。</li> <li>・ワークシートを準備して、実験方法と結果を整理させる。</li> </ul>	<p>挿絵 ワークシート</p>
<p>4. 「問い」に対する「答え」を見つける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問いを確認し、答えを見つけ、線を引かせる。</li> <li>・まとまりに見出しをつける「～～ヤドカリ」と書けるように支援する。</li> </ul>	<p>ワークシート</p>

## 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

### 【領域：B-2】

#### 1 児童生徒の日本語習得状況（平成29年5月16日）

DLAステージ	ステージ4
---------	-------

#### 2 児童の実態

- ① 学年（小）：第3学年
- ② 国籍及び母語：フィリピン・フィリピン語
- ③ 在留期間：14ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況
  - ・自分の思いを会話を通して話せるようになってきたが、主語述語や助詞等が十分に身につけていない。
  - ・音読は上手で漢字もよく覚えている。ひらがな・片仮名、1～3年の漢字の読み書きが正しくでき、文字もていねいに書けるようになってきた。日記作文は意欲的に書こうとするが、意味がわかりにくい。
  - ・生活の中でも日本語を理解し、友達と話せるようになってきた。

#### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名） 第3学年国語 「ありの行列」

#### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・漢字を正しく読み書きすることができる。
- ・「初め」「中」「終わり」の組み立てや「問い」と「答え」に基づいて、「ありの行列」の内容を捉えることができる。
- ・実験と考察に注意しながら各段落の内容を読み取ることができる。
- ・指示語や接続語の使い方を理解し、生活に生かすことができる。
- ・文章の内容と感想を発表することができる。
- ・学習内容に沿ったワークシートを使って、問いに対し答えになる文章を見つけ必要な文章や言葉を書き出す。

#### 5 指導内容の概要

##### 学習指導の流れ

- ・挿絵と文を照応させながら教材文を読み進め、読めない漢字にはルビ打ちをする。
- ・わからない言葉を国語辞典で調べ、ノートにまとめる。
- ・初発の感想を書く。
- ・形式段落わけをする。
- ・「問い」と「答え」に着目して各段落の内容を捉え、中心となる文を書き抜く。
- ・「これらの」「そこで」「この研究から」「このように」等の指示語や「はじめに」「つ

ぎに」「そして」「このように」「そこで」等の接続語に注意して、ウイルソンの考え方を確かめる。

- ・色々な場面で指示語が使えるように練習する。
- ・学習後、気づいたことや引きつけられたことをまとめ、発表する。
- ・他の科学読み物を読み、気づいたことを友だちに紹介する。

## 6 指導における工夫点・学習の成果

- ・毎時間ワークシートを使い、内容の読み取りに生かすことができた。
- ・学習内容理解が困難な時は、挿絵を手掛かりに読み進めた。
- ・生活の中で使えるように色々な場面で指示語の使い方を学習した。
- ・苦手であった読み・書きの場面で、聞き手を意識した読み方や筆圧のある丁寧な文字が書けるようになってきた。また、話す場面では、まだわかりやすく伝えるということは難しいが、自分の言葉で人に伝えようという意欲は感じられるようになった。褒められることが増え、自信をつけ色々な場面で意欲的に学習するようになってきた。

## 7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・「ありの行列」のワークシート
- ・絵カード（動物・食べ物・やさい・生活道具・反対言葉・あいさつ）
- ・ホワイトボード（苦手な漢字や言葉を書きとめ、すぐに反復練習）
- ・名数のプリント
- ・日本語学級Ⅱ（凡人社）
- ・カルタ

## 8 活動の様子





## 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

### 【領域：B-3】

#### 1 児童生徒の日本語習得状況（平成29年5月10日）

DLAステージ	3
---------	---

#### 2 児童の実態

① 学年（小）：第2学年

② 国籍及び母語：ベトナム・ベトナム語

③ 在留期間：90ヶ月

④ 日本語習得状況及び学習状況

- ・生活言語については意味もほとんど理解して会話をする事ができるが、同学年の児童に比べて語彙は少ない。
- ・学習言語についてはまだまだ習得できていないことが多い。発表をする際にも、つなぎ言葉を用いて発表ができず、単語の羅列で終わってしまうことが多い。漢字も1年生・2年生の既習漢字も習得できていない文字が多い。

#### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○国語科：同じところ、ちがうところ

#### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・二つの物を比べて同じところと違うところを見つけ、それぞれを整理して文章に書くことができる。
- ・比べて書く時に使う言葉「同じ」、「どちらも」、「ちがう」、「～は…で、～は…です。」を習得し、活用することができる。

#### 5 指導内容の概要

- ・前時までに、物を比べる時の着眼点を学習して、それを元に二つの物を比べて表にまとめた。本時は、表を元にして比べた内容を整理して、「同じ」、「どちらも」、「ちがう」、「～は…で、～は…です。」の言葉を用いて文章にまとめさせていく。その際に、「同じ」、「どちらも」、「ちがう」、「～は…で、～は…です。」の言葉をきちんと活用できるように、使い方を丁寧におさえて指導する。

#### 6 指導における工夫点・学習の成果

##### 工夫点

- ・まとめた表と例文を並べて掲示することで、表で整理したことをどのように文章でまとめていったらよいか、視覚的に分かりやすくした。

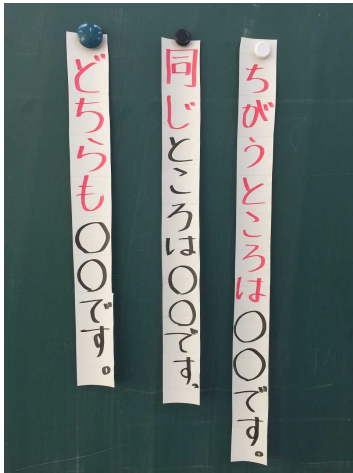
##### 成果

- ・同じこと、違うことを表す言葉の使い方を短冊の例文を用いて示すことで、文章の書き方の助けとなっていた。これらの手立てもあり、表に整理したことを

文章で書き表すことができた。

7 教材・教具（開発教材も含む）

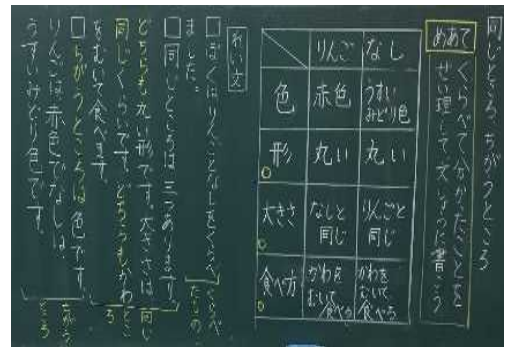
- ・ 例文の短冊



8 活動の様子

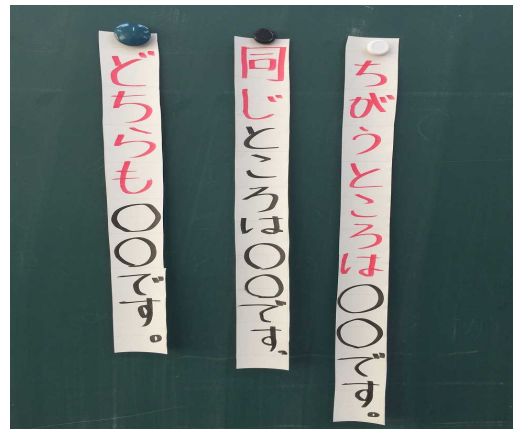
表と例文を並べることで、分かったことをどのように書いていけばよいかを見て分かるように板書した。これにより、黒板を見て自分の書いた表を見て書くという流れが分かり、自分の表から適切に分かったことを抜き出して文章に書くことができた。

(写真1)



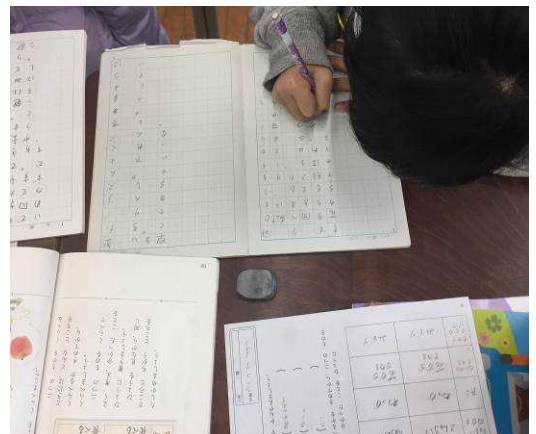
同じことや違うことを書く際に使う言葉も短冊で掲示することで、児童自身も何度も確認をしながら文章を書くことができた。今後も様々な学習を通して、何度も言葉を用いてさらに身に付けさせていきたい。

(写真2)



学年が上がるにつれて、答え方が文章表記で求められることが増えてくる。日本人児童にも見られるが、自分の考えや思いを文章に表す事を苦手とするベトナム人児童も多い。その中で、低学年から文章の書き方をきめ細かく指導することで、書く力を養うことが大切であると、本学習を通して感じた。

(写真3)



(別紙)

第2学年 日本語指導（JSL国語科）学習指導案

1 題材

「割合」

2 児童の実態

日本生まれであるので生活言語については意味もほとんど理解して会話をする  
ことができるが語彙は少ない。学習言語についてもまだまだ習得できていない言葉が多  
い。発表をする際にも、つなぎ言葉を用いて発表ができず、単語の羅列で終わってし  
まうことが多い。本学習を通して、文章の書き方、発表の仕方を身に付けさせたい。

3 目標

二つの物を比べて同じところと違うところを見つけ、それぞれを整理して文章に書くこ  
とができる。

4 指導計画（4時間）

第1時 学習の見通しを立てる。

第2時 二つの物を比べて、表にまとめる。

第3時 比べて分かったことを説明する文章を書く……………（本時）

第4時 二つの物を比べて、同じところと違うところを整理して、説明する文章を書く  
ことができたか振り返る。

5 本時の目標

(1) 目標

比べて分かったことを整理して文章を書くことができる。

(2) 日本語の目標

○比べて書く時に使う言葉を用いて、比べる文章を書くことができる。

- ・ 同じ
- ・ どちらも
- ・ ちがう
- ・ ～は…で、～は…です。

6 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	備考
<p>1 本時のめあてを知る。</p> <p>(1) 既習事項をふり返る。</p> <p>(2) 学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時で比べるものを観点別に表にまとめた物を用いて、これまでの学習を振り返る。</li> <li>・ 本時は、表を用いて比べた物の「同じところ」と「ちがうところ」を説明する文章を作成するというめあてを伝える。</li> </ul>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     比べて分かったことを整理して文章に書こう                 </div>		
<p>2 文章の書き方を知る。</p> <p>(1) 表をもとに文章をどのように書くか学ぶ。</p> <p>(2) 比べる時に使う言葉を知る。</p> <p>・「同じ」、「どちらも」、「ちがう」</p> <p>「～は…で、～は…です。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書に例として挙げられている表を提示して、それぞれの観点が「同じところ」、「ちがうところ」に分かれることに気付かせる。</li> <li>・ 次に例文を用いて、「同じところ」、「ちがうところ」が例文ではどのように用いられて文章が書かれているか確認させる。</li> <li>・ 比べて書く時に用いる言葉を紹介する。</li> <li>・ 「同じ」、「どちらも」、「ちがう」、「～は…で、～は…です。」を用いた例文短冊を使い、具体的にどのような文書を書けばよいか示す。</li> </ul>	<p>・ 例文短冊</p>
<p>3 比べて分かったことを文章に書く。</p> <p>(1) 表の観点を分類する。</p> <p>(2) 文章を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童自身の表から、それぞれの観点を「同じところ」、「ちがうところ」に分類させる。</li> <li>・ 「同じところ」、「ちがうところ」に分類した物を用いて文章を書く。</li> <li>・ 比べて書く言葉を用いて書くことを意識させる。</li> <li>・ 書き方が分からない児童には、黒板の例文を参考にして書くように伝える。</li> <li>・ 書き終えた児童には、誤字脱字がないか確認させる。</li> <li>・ 比べる時に使う言葉が使われているか確認させる。</li> </ul>	
<p>4 本時のまとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 整理して書くには、表にまとめて観点を分類することが有効であることを振り返る。また、比べる時に使う言葉を確認して、他の文章を書く時にも使用することを促す。</li> <li>・ 次時では、ペアで文章を発表し合い、伝わりにくかった表現などを考察して、再度書き直したものを全体で発表することを伝え、意欲付けを図る。</li> </ul>	

## 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

### 【領域：B-3】

#### 1 児童生徒の日本語習得状況（平成29年6月1日）

D L A ステージ	ステージ5
------------	-------

#### 2 児童の実態

- ① 学年（小）：第4学年
- ② 国籍及び母語：フィリピン・フィリピノ語
- ③ 在留期間：87ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

小さいころに来日し、生活言語は不自由なく使用できる。集団学習にもある程度ついていけるが、物の名前や日本の文化や習慣を知らず、困ることが多い。また、自分の感想や意見を持っているが、どう文章にしたらよいか迷い、書く活動に時間がかかる。

#### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

国語：文と文をつなぐ言葉

#### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

つなぎ言葉の働きを理解する。  
つなぎ言葉を正しく使う。

#### 5 指導内容の概要

- ・知っているつなぎ言葉を出す。
- ・つなぎ言葉を使って例文の後ろに続く文を書く。
- ・教科書の表に書かれている接続語を使って文を書く。

#### 6 指導における工夫点・学習の成果

授業前に、簡単なテストを行い、①知っているつなぎ言葉 ②どれくらい正しく使用できるか ③本人が感じている難易度を把握した。すると、「まず」「つぎに」「そして」「また」「しかし」などよく使われるつなぎ言葉は知っていることがわかった。しかし、文と文をつなぐのに正しいつなぎ言葉を選ばせると、正解率は5割程度だった。そこで、教科書の難しい例文ではなく、学校の先生が登場する例文を使い、楽しみながら理解できるようにした。また、作文活動を取り入れ、自分で表現しながらつなぎ言葉を正しく理解できるようにした。

#### 7 教材・教具（開発教材も含む）

写真（文章を想起させやすくするために使う）

## 8 活動の様子

下の③では、文末は「～ですか。」と書いていたが、途中で気づき、前の文に合わせて訂正をした。このように気づいたのは、良い気づきだったのでたくさん褒めた。

普段は、簡単な問題に取り組む傾向があるが、今回は新しく知ったつなぎ言葉を使って作文に取り組む姿が見られた。

文と文をつなぐ言葉  
◎ つなぎ言葉を使って文を書こう

(一)

① 明日は晴れだ。  
(だから)、友だちと外で遊ぶ約束をしよう。

② ぼくの友達は、サッカーが得意だ。  
(しかも)、計算も速くできる。

③ 飲み物はコーラでよろしいですか？  
(それとも)、コーヒーですか。  
でよろしいですか。

④ 放課後は、いつも公園であそんでいる。  
(でも)、今日は雨で遊べない。

⑤ これで、算数の授業を終わります。  
(では)、休み時間にしましょう。

(別紙)

## 第4学年国語科学習指導案

### 1 単元名 つなぎ言葉を正しく使おう

教材名 文と文をつなぐ言葉 (光村図書 4年下)

### 2 単元目標

文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使うことができる。

### 3 単元の評価規準

(1) 接続語を適切に使って、文を書いている。【書】

(2) 接続語が文と文とのつながりに果たす役割を理解して、使っている。【読】

### 4 単元の指導計画 (全3時間, 本時3時間目)

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
第1次	1	○教科書 P64, P65 を読み、接続語が文と文のつながりを明確にするものであることを理解する。 ○接続語の部分が空欄になったクイズ問題に取り組み、「しかし」「だから」を適切に使う。 ○P66 を読み、接続語の違いによって、気持ちの伝わり方が違うことを理解する。	○接続語によって、文章をより正確に理解したり、表現したりすることができるという期待感を持たせる。 ○正しく答えられなくても、これから一つひとつ覚えられるようにしていこうと励ます。	・接続語の働きを知り、「しかし」と「だから」を適切に文の中で使っている。 【読】(観察・ワークシート①) ・接続語が論理関係だけでなく、気持ちを表すことがあることを理解している。 【読】(発言)
第2次	2	○P67 の表をもとに、接続語の働きと使い方について整理する。 ○P68, P69 の課題に取り組む。	○既習の教材(教科書・上)から接続語を探し、働きや使い方を捉える。	・さまざまな接続語とその働きについて理解している。 【読む】(発言・ワークシート②)
第3次	3 本時	○正しくつなぎ言葉を使って文を書く。 ○学習を振り返り、まとめる。	○前時までの学習を生かして、短文を作ることで接続語の使い方への理解を深めさせる。 ○接続語を使うと、伝えようとするのが伝わりやすくなることを感じさせる。	接続語を適切に使って、自分の考えたことを文章に書きまとめている。【書】(ワークシート③)

5 本時の目標

○正しくつなぎ言葉を使って，文を書くことができる。

6 本時の展開（第三次）

	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
導 入	1 学習のめあてを確かめる。		
	正しくつなぎ言葉を使って，文を書こう。		
展 開	2 教科書 P67 の表を参考に，つなぎ言葉を使って例文の後ろに続く文を書く。	○書き出すのが難しい児童には，文章を書く際に場面を想像できるように口頭で書くテーマを提示する。（運動会で，食事の時に，など）	○接続語を適切に使って文を書いている <b>【書】</b> ＜観察・ワークシート＞
	3 教科書 P67 の表に書かれている接続語を使って文を書く。	○色々なつなぎ言葉を使うために，一度使ったつなぎ言葉は，チェックを入れる。	
	4 できた文章を友だちと交流し，働きや使い方を確かめ合う。	○前の文と後ろの文の関係を確かめ，正しくつなぎ言葉が使われているのか確認する。	
終 末	5 接続語を使って振り返りを書く。	○接続語を使うと，伝えようとしていることが伝わりやすくなることを感じさせる。	



# 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

## 【領域：C－1】

### 1 児童生徒の日本語習得状況（平成29年5月26日）

DLAステージ	2
---------	---

### 2 児童の実態

- ①学年(小)：第3学年
- ②国籍及び母語：ベトナム、ベトナム語・中国語
- ③在留期間：21ヶ月
- ④日本語習得状況及び学習状況

家庭では父とはベトナム語、母とは中国語で生活しており、日本語に触れる機会は学校に限られている。ひらがなやカタカナは読み書きできるようになってきたが、漢字は厳しい状況である。家庭学習ができないので、日本語習得は学校に限られている。学習内容も定着が課題である。

### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○算数科：円と球

### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・円や球についての基本的なことがらを理解する。
- ・コンパスを使って、円を書いたり、長さを写し取ったりする。
- ・「円」「球」という言葉の意味を理解し、「まるい」という言葉からおきかえることができる。
- ・中心、半径、直径という言葉の意味を理解して言える。

### 5 指導内容の概要

※別紙参照

### 6 指導における工夫点・学習の成果

（工夫点）

- ・自分で作業する機会を多くとった。
- ・新しく習った言葉は声に出して読み、大事な言葉には線を引かせた。
- ・重要語句を覚えるために繰り返しの場を設定した。
- ・練習プリントを用意した。

（成果）

- ・繰り返し練習する機会を多くすることで、知識や技能の定着を図ることができた。

### 7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・算数の教科書
- ・ワークシート

8 活動の様子



算数の授業の様子

(別紙)

第3学年日本語指導（JSL算数科）学習指導案

1. 単元 「円と球」

2. 対象児童の実態

支援児童は、在籍学級の国語と算数の時間にワールドルームで取り出している。複数学年が一度にやって来るので日本語指導担当者と支援員が役割分担をして支援を行っている。

A児 国籍（ベトナム）母語（ベトナム語・中国語）日本生まれ 長期帰国あり	
日本語力	<ul style="list-style-type: none"><li>・乳幼児期にベトナムの祖父母に預けられており、1年生の11月に本校に編入したので文字や言葉の習得に時間がかかり、指示が分かりにくい。</li><li>・日常会話や学習の場面での会話はできるようになってきたが、読み書きはまだ支援が必要である。</li><li>・日本語の中の使える語彙は生活言語に限られている。</li><li>・日本語の構文や約束事はほとんど理解していない。</li></ul>
B児 国籍（ベトナム）母語（ベトナム語）日本生まれ 長期帰国あり	
日本語力	<ul style="list-style-type: none"><li>・日常会話や学習の場面での会話はでき、読み書きはなんとかできる。</li><li>・日本語の中の使える語彙は生活言語に限られている。</li><li>・日本語の構文や約束事はほとんど理解していない。</li></ul>
C児 国籍（ベトナム）母語（ベトナム語）日本生まれ	
日本語力	<ul style="list-style-type: none"><li>・日常会話や学習の場面での会話はでき、読み書きはなんとかできる。</li><li>・日本語の中の使える語彙は生活言語に限られている。</li><li>・日本語の構文や約束事はほとんど理解していない。</li></ul>
D児 国籍（ベトナム）母語（ベトナム語）日本生まれ	
日本語力	<ul style="list-style-type: none"><li>・日常会話や学習の場面での会話はでき、読み書きはなんとかできる。</li><li>・日本語の中の使える語彙は生活言語に限られている。</li><li>・日本語の構文や約束事はほとんど理解していない。</li></ul>
E児 国籍（フィリピン・日本）母語（タガログ語）日本生まれ 長期帰国あり	
日本語力	<ul style="list-style-type: none"><li>・日常会話や学習の場面での会話はでき、読み書きはなんとかできる。</li><li>・日本語の中の使える語彙は生活言語に限られている。</li><li>・日本語の構文や約束事はほとんど理解していない。</li></ul>
F児 国籍（フィリピン・日本）母語（タガログ語）日本生まれ 長期帰国あり	
日本語力	<ul style="list-style-type: none"><li>・日常会話や学習の場面での会話はでき、読み書きはなんとかできる。</li><li>・日本語の中の使える語彙は生活言語に限られている。</li><li>・日本語の構文や約束事はほとんど理解していない。</li></ul>

### 3. 目 標

算数科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円と球についての基本的なことがらを理解する。</li> <li>・コンパスを使って、円をかいたり、長さを写しとったりする。</li> </ul>
日本語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「円」「球」という言葉の意味を理解し「まるい」という言葉からおきかえることができる。</li> <li>・中心、半径、直径という言葉の意味を理解して言える。</li> </ul>

### 4. 本時の目標

円のかき方とコンパスの使い方、および円の中心、半径について理解する。

### 5. 学習活動

児 童 の 活 動	教 師 の 支 援	備 考
1. まるい形のかき方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由にかく方法を考えさせる。</li> <li>・長方形のカードや糸を使ってまるい形をかかせ、きれいなまるをかくためにはコンパスを使えば良いことを知らせる。</li> </ul>	長方形のカード 糸 押しピン コンパス
2. コンパスを使ってまるい形をかく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンパスの安全な使い方を伝える。</li> <li>・実際にコンパスを使ってかいて見せて、円のかき方を知らせ練習させることでコンパスの便利さを実感できるようにする。</li> </ul>	
3. 「円」「中心」「半径」の用語を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆声に出して読み、大事な言葉に線を引かせる。</li> <li>・コンパスの針をさした部分が円の中心になっていることに気づかせる。</li> <li>・円の周りから中心までの長さはどこを測っても同じであることから、中心から円の周りまで引いた直線を半径と呼ぶことを教える。</li> </ul>	
4. コンパスを使って半径5cmの円をかく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンパスの先を開いた長さが半径になることに気づかせる。</li> <li>・円の半径はどこを測っても同じ長さであることを理解させる。</li> </ul>	
5. 練習プリントをする。  ・半径4cm、半径6cmの円をかく	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆重要語句を覚えるために繰り返しの場を設定し、プリントを用意する。</li> <li>・コンパスで半径を正しく測り、円をかく練習をさせ、コンパスの操作に慣れさせる。</li> </ul>	プリント

## 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

### 【領域：C-2】

#### 1 児童生徒の日本語習得状況（平成29年5月11日）

DLAステージ	3
---------	---

#### 2 児童の実態

① 学年（小）：第4学年

② 国籍及び母語：ベトナム・ベトナム語

③ 在留期間：121ヶ月

④ 日本語習得状況及び学習状況

- ・生活言語は理解しており、きちんと自分の気持ちや要件などを伝えたりすることができる。学習言語では、これまでの学習で定着していないものもある。
- ・計算は簡単なかけ算やわり算はできるが、桁数が増えると難しくなる。四則計算は概ね3年生の学習内容は習得している。文章問題や表から情報を読み取る問題も難しさを感じている。

#### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○算数科：調べ方と整理のしかた

#### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・身近な辞書を2つの観点から整理し、二次元の表に表して、その事象の特徴をつかむ力を深める。
- ・表の書き方を理解し、簡単な二次元の表をかく。

#### 5 指導内容の概要

- ・提示された情報から、表を完成させるためにどの情報がどの欄に入るかを読み取らせる。
- ・読み取らせた情報を基に表を完成させる。また、表から分かることを、指示棒を用いて説明させる。

#### 6 指導における工夫点・学習の成果

##### 工夫点

- ・教科書に書いてある表の書き方の説明で、抽象的な部分を二次元表を用いて具体的に説明した。
- ・二次元表を目で追って読み取るのではなく、指と説明を連動させて繰り返し何度も読み取らせ、定着を図った。

##### 成果

- ・表の書き方も詳しく説明したため、表も適切に書けるようになった。また、繰り返し指と説明でどこの数値を読み取っているのか指導したため、表から読み取ったことを発表する際には、学習言語を用いて具体的に発表ができた。

7 教材・教具（開発教材も含む）

・二次元表

体の部分 けがの種類	顔	足	手	うで	合計
すりきず	3	4	2		9
ヒカリきず			1	2	3
ねんざ		3			3
つき指			2		2
打撲		2		1	3
さしきず			1	1	2
合計	3	9	6	4	22

8 活動の様子

- ・二次元表の書き方を詳しく説明したことで表の縦横の項目の意味も理解しつつ、資料から情報を読み取り適切に表を完成させることができた。



(写真1)

- ・本時の日本語の目標でもある、表の読み取り＝「どんなけがを体のどの部分にした人が多いですか・少ないですか」を意識して教師も何度も発問し、児童には指示棒で指しながら説明することを繰り返させた。その成果もあり、自分で見つけた情報を、指示棒を使い詳しく説明することができた。学習言語の習得と同時に、発表する力も身に付けることができたと考えられる。



(写真2)

- ・学習言語の習得は、具体物を用いて視覚支援も大切である。しかし、数学的活動を通し、また、その活動を何度も繰り返すことで児童自身も学習言語を自然と身に付け、活用することができた。今回の学習で得た事を、今後の学習にも広げていき、児童の可能性を広げていきたい。



(写真3)

## 第4学年日本語指導（JSL算数科）学習指導案

### 1 題材

「調べ方と整理のしかた」

### 2 児童の実態

日本生まれであるので、日常会話にはほとんど困らない。一方で、学習内での学習言語では理解ができないことがある。算数科では、四則計算・文章問題を苦手としている。また、考えをもっている自信がなく発表もできない。本教材は計算問題などと違い、情報の扱いという点で、児童にとっては比較的考え易い。資料から表を書き、完成させた表から調べて発表させる学習を行い、学習言語の習得と同時に、児童にとって成功体験を積ませて意欲を喚起させたい。

### 3 目標

身近な事象を2つの観点から整理し、二次元の表に表して、その事象の特徴をつかむ力を深める。

### 4 指導計画（5時間）

第1次 復習と準備…………… 1時間

第2次 課題設定…………… 3時間

第1時 けが調査による2つの観点について調べる事への動機づけ

第2時 2つの観点で分類・整理された二次元の表の読み方……………（本時）

第3時 仲間に分けて考える問題

第3次 たしかめ…………… 1時間

### 5 本時の目標

#### （1）目標

二次元の表の書き方を理解し、簡単な二次元表を書き調べる。

#### （2）日本語の目標

○二次元表から、情報を正確に読み取ることができる。

・どんなけがを体のどの部分にした人が多いですか。

・どんなけがを体のどの部分にした人が少ないですか。

○ターゲットセンテンス

・～は体のどこにどのようなけがをした人ですか。

6 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	備考
<p>1 本時のめあてを知る。 既習事項をふり返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項のふり返りで、正の字での人数の数え方、表の見方を確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;">                     表にまとめて調べよう                 </div>	
<p>2 問題解決</p> <p>(1) 問題①の題意をつかむ。</p> <p>①表題を書く。 ②記録の上から順に書く。 ③正の字で記録する。 ④合計を確認する。</p> <p>3 表を読み取る。</p> <p>(1) 表を読み取り、問題を解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「どんなけがが一番多いですか。」</li> <li>・「どの部分の怪我が一番少ないですか。」</li> <li>・「どの部分のどの怪我が一番多いですか。」</li> </ul> <p>(2) 表から分かることや気づいたことを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表から自身で気づいたことを読み取る。</li> </ul> <p>4 読み取ったことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べたことを発表する。</li> </ul> <p>5 学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料から情報を読み取り、2つの事柄についての表を書くことを伝える。</li> <li>・表の書き方を伝える。</li> <li>・教科書に出てくる「記録の上から」等の抽象的な説明を具体的に説明することで、表を書く助けとする。</li> <li>・資料から重複して数を数えないように、指で押さえながら数える等注意を促す。</li> <li>・二次元の表の縦列から読み取らせる。次に横列を読み取らせ、最後に表を縦と横に読み取るように発問の難易度を少しずつ高めていき、表の読み取りに慣れさせていく。</li> <li>・表から読み取ったことをノートにまとめさせる。</li> <li>・考えの手がかりとして、大きな数字や小さな数字に注目させる。</li> <li>・数字の0「けがのなかった部位」等にも目を向けられるように声掛けをする。</li> <li>・二次元の表の理解を深める為に、指示棒を用いて縦列と横列を指しながら発表するように伝える。</li> <li>・表の書き方や表の調べ方を振り返ることで、本時の学習をより深いものとし、次回の学習へとつなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二次元表</li> </ul>



## 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

### 【領域：C-3】

#### 1 児童生徒の日本語習得状況（平成29年6月1日）

DLAステージ	ステージ3
---------	-------

#### 2 児童の実態

- ① 学年：第2学年
- ② 国籍及び母語：ペルー・スペイン語
- ③ 在留期間：30ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

生活言語に不自由さはあまり感じられなくなったが、ときどき首を傾げ、相手の言っている内容がわからないこともある。学習言語は授業の中で学習していくがなかなか定着しない。また、新出漢字は一画多かったり少なかったり、とめ・はね・はらいなども曖昧に覚える傾向があり苦戦している。算数では基本はすぐ理解するが、問題によって何を尋ねられているのかわからず、立式に自力でたどりつかないこともある。

#### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

算数：かさ

#### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

かさの学習で必要な言葉（かさ、ます、1杯、l、dl、mlなど）を理解する。  
かさの単位の読み方・書き方・相互関係を理解する。  
かさの見積もりができる。

#### 5 指導内容の概要

- ・ 単元を復習する。
- ・ 図にあるかさを正しく表記する。
- ・ かさくらべのくらべ方の間違いを説明する。
- ・ かさくらべをするときは、同じ入れ物でくらべることが必要だとわかる。

#### 6 指導における工夫点・学習の成果

教科書ではなかなか理解が難しいので、絵が多い「ちびむすドリル」を使用して復習した。リットルますで問題を可視化してあるので、量感を感じながら学習を進めることができた。

教科書のお話問題では、場面を理解するのに時間がかかるため、実際に体現させ、問題場面の理解を促した。すると、学習課題にスムーズに取りかかれたので、効果を感じた。

7 教材・教具（開発教材も含む）

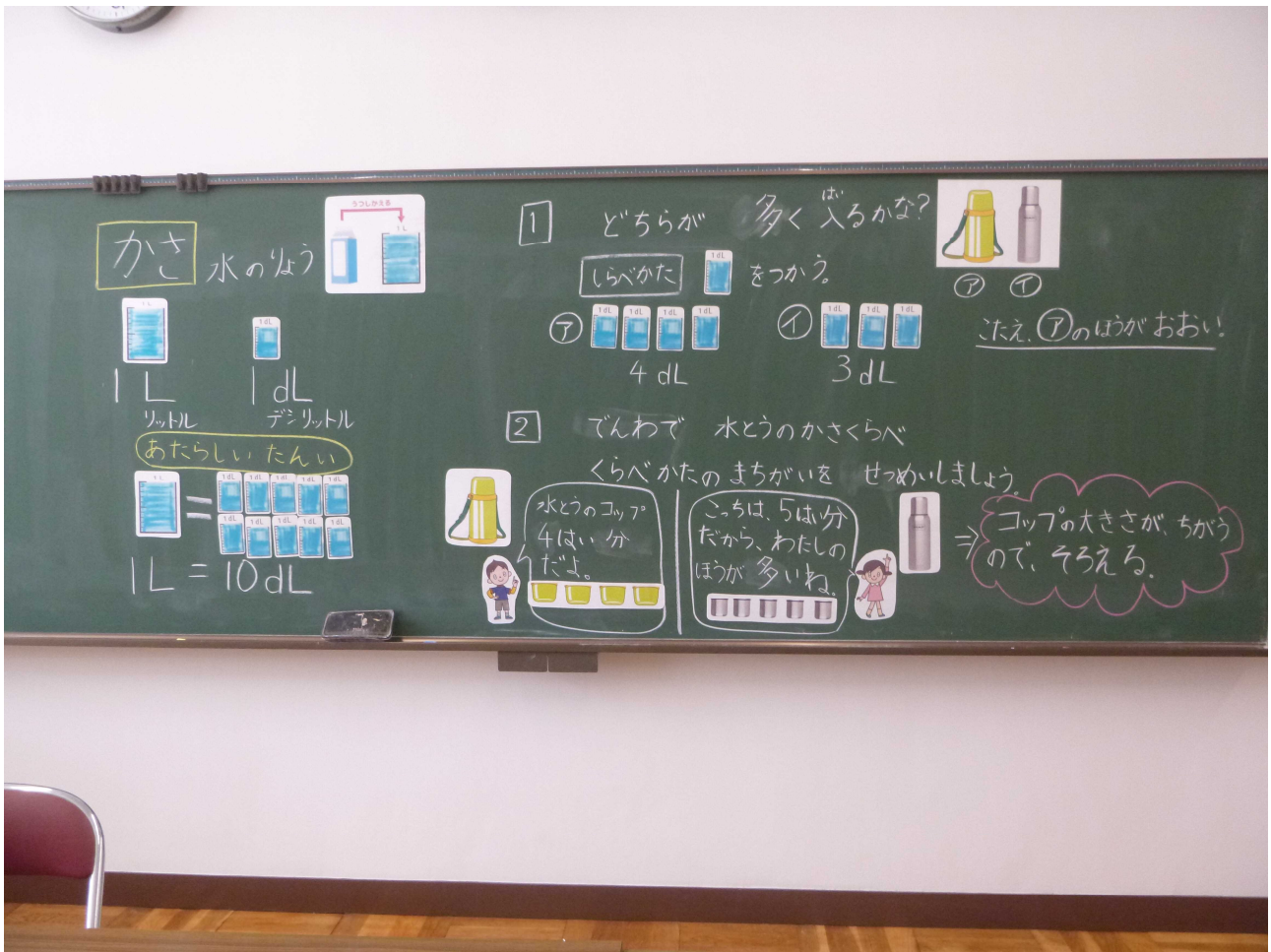
- ・ちびむすドリル

8 活動の様子

ちびむすドリルは、同じような問題で少しずつ難易度が上がるので、進んで取り組む姿が見られた。

1000mlの量感を忘れたときは、牛乳パックを見せた。すると、測定活動を思い出したようで、問題が解けた。

水とうのかさくらべでは、透明の水筒・色水を使用することで理解がはやかった。くらべかたのまちがいを説明するときは、自分が知っている言葉で説明ができた。



(別紙)

## 第2学年算数科学習指導案

1 単元名 かさ

教材名 かさ (啓林館 2年上)

2 単元目標

かさの普遍単位 (l, dl, ml) を知り、かさの予想やかさくらべで説明ができる。

3 単元の評価規準

(1) かさの単位 (l, dl, ml) のよみ方・かき方・相互関係を理解する。

(2) 測定活動から、「AはBより2l (リットル) 多く入る」など説明ができる。

4 単元の指導計画 (全6時間, 本時6時間目)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準【 】 評価方法 ( )
1	<ul style="list-style-type: none"><li>・かさをはかるにはますを使うことや、単位 l を用いることを理解する。</li><li>・ 1 l ますで水のかさをはかる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・水のかさをはかる際は、実演して方法を正しく理解させる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・かさを単位 l を用いて表すことができる【知】 (ワークシート)</li><li>・ 1 l ますを使って、いろいろな入れ物に入る水のかさを測定できる。【技】(観察)</li></ul>
2	<ul style="list-style-type: none"><li>・単位 dl を知り、よみ方とかき方を理解する。</li><li>・ l と dl の関係を理解する。</li><li>・かさの計算をする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 1 l ますではかれない量を体感させ、dl の必要性を感じさせる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・かさを単位 dl を用いて表すことができる【知】 (ワークシート)</li><li>・水のかさを測定できる。【技】 (観察)</li><li>・計算ができる【技】(ワークシート)</li></ul>
3	<ul style="list-style-type: none"><li>・単位 ml を知り、よみ方とかき方を理解する。</li><li>・ l と ml の関係を理解する。</li><li>・生活の中の ml 表示を探す。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 1 dl ますではかれない量を体感させ、ml の必要性を感じさせる。</li><li>・体験させて、ml になじませる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・かさを単位 ml を用いて表すことができる【知】 (ワークシート)</li><li>・水のかさを測定できる。【技】 (観察)</li></ul>
4	<ul style="list-style-type: none"><li>・かさの加減計算をする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・同じ単位のみで計算をすることをおさえる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・かさの計算ができる。【技】(ワークシート)</li></ul>

5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1l の量感を豊かにする。</li> <li>・ 量の大きさの見当をし、測定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いろいろな入れ物に 1l だと思いかさを入れ、実際に 1l ますでその量を確認させる。</li> <li>・ 児童なりに根拠をもたせ、測定により確かめさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ かさの量感が身につく。【知】（観察・ワークシート）</li> <li>「Aは～だから〇〇だ。」のように見当を日本語で話すことができる。【日本語指導：話】（発表）</li> </ul>
6 本 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今までの復習を行う</li> <li>・ 練習問題を解く。</li> <li>・ かさくらべの間違いについて説明をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 可視化された教材を使う。</li> <li>・ 問題がとらえにくいものは、体現させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ かさくらべの間違いを説明できる。【日本語指導：話】（発表）</li> </ul>

### 5 本時の目標

○既習事項を活かし、かさくらべの間違いを説明することができる。

### 6 本時の展開（第一次 第6時）

	学習活動	指導上の留意点	評価規準【 】 評価方法（ ）
	1. 既習事項の復習をする。 2. 練習問題を解く。 3. 本時の学習のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ キーワードをおさえる。</li> <li>・ つまずいたら、教科書をもう一度復習させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単位がわかる。【知】（発表）</li> <li>・ 問題文を理解し、解くことができる。【技・思考】</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">かさくらべを説明しよう。</div>		
	4. 問題①どちらが多く入るか予想し、問題を解く。 5. 問題② 水筒のかさくらべの間違いを考えさせ、説明させる。 6. まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「Aの水筒は太いから多く入ると思う。」など自分なりの根拠をはっきりと説明させる。</li> <li>・ 問題を体現させ、理解を促す。</li> <li>・ かさくらべをするときは、同じコップで比べることが大切だとおさえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 根拠をもって説明ができる。【日本語指導：話】</li> <li>・ 間違いに気づき、既習学習を活かして説明ができる。【日本語指導：話】</li> </ul>

# 日本語指導支援推進校事業 実践報告書

## 【領域：C－3】

### 1 児童生徒の日本語習得状況（平成29年5月12日）

DLAステージ	3
---------	---

### 2 児童・生徒の実態

- ① 学年（小）：第5学年
- ② 国籍及び母語：ベトナム、ベトナム語
- ③ 在留期間：46ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況
  - ・短い在留期間ではあるが、本人の努力もあり多くの生活言語・学習言語を習得してきている。
  - ・四則計算は得意であるが、文章問題となると書かれている内容を読み取ることができない場合もあるので自信をもてなくなる。

### 3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○算数科：割合

### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・割合の意味について理解し、小数や百分率を用いて問題を処理することができる。
- ・「割合」、「くらべる量」、「もとにする量」の意味を理解し、活用することができる。

### 5 指導内容の概要

- ・なにが「割合」、「くらべる量」、「もとにする量」になるか確認し、「もとにする量」を求める学習であることに気付かせる。
- ・関係図や線分図を用いて「もとにする量＝くらべる量÷割合」で求めることができることを考えさせる。

### 6 指導における工夫点・学習の成果

#### 工夫点

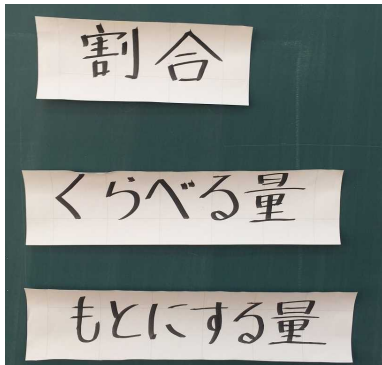
- ・文章から「割合」、「くらべる量」、「もとにする量」を読み取るために、「△△は〇〇の□倍」や「定員」という言葉等に注意を向けると見つけやすいことを助言した。
- ・関係図、線分図を積極的に用いて、視覚的にも考えが進むように指導した。
- ・「割合」、「くらべる量」、「もとにする量」の言葉を定着させるために、これらの言葉を用いて発表をさせた。

#### 成果

- ・関係図・線分図を積極的に用いることで、自分で図を描き考えることができた。
- ・「割合」、「くらべる量」、「もとにする量」の言葉を繰り返し用いることで、問題文を見て、どこが何の量になるのか判断することができるようになった。

7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・ 3量（割合、もとにする量、くらべる量）の短冊



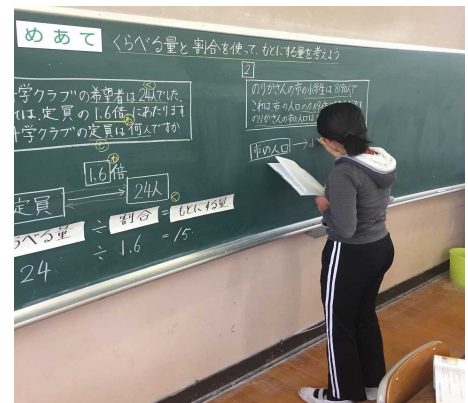
8 活動の様子

- ・ 始めに既習事項の「割合」、「もとにする量」、「くらべる量」を確認して、学習の繋がりを確認した。また、文章題から3量を確認して、何を求める問題であるのか考えさせた。また、関係図の書き方を徹底して指導してきたので、関係図を描き図の関係から立式することもできた。



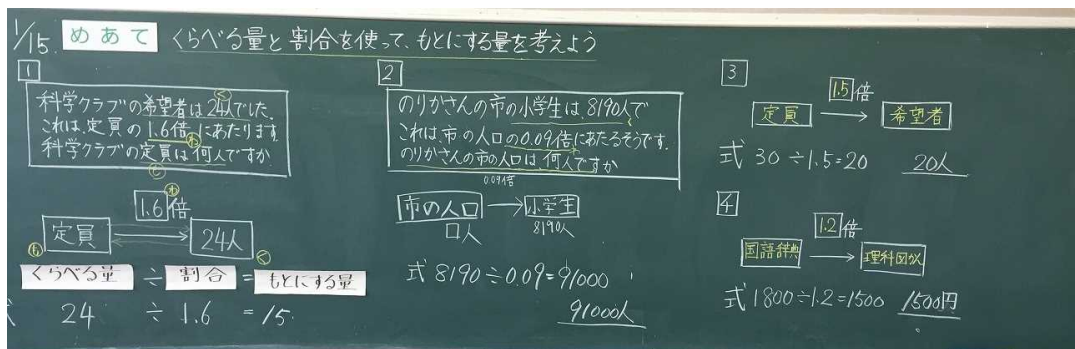
(写真1)

- ・ 適用題も自分で3量を確認して、何を求めるかを確認してから、関係図を用いて立式することができた。自ら図を描けることは、今後の学習で必ず必要となってくるものであるため、少しずつ身に付けてほしい。また、指示棒で関係図を指しながら考えを発表することもできた。言語の獲得の為に積極的に用語を活用する場を設ける必要を実感することができた。



(写真2)

- ・ 本時の学習により、数字が表わす意味を理解していた。また、関係図や線分図を描くことが、学習の理解を深めると同時に、算数科で出てくる学習言語や用語も意味をしっかりと理解したうえで習得することができていると感じた。本時の授業から得たことを算数科だけでなく、他の授業にも活用できるようにしていきたい。学力を少しでも向上できるようにしていきたい。



(写真3)

(別紙)

第5学年日本語指導（JSL算数科）学習指導案

1 題材 「割合」

2 児童の実態

日本生まれの児童に比べて在留期間は46ヶ月と短いですが、本人の努力もあり多くの生活言語・学習言語を習得してきている。日常会話にはほとんど困らないが、学習内での学習言語では理解ができないこともある。算数では、四則計算はできるが学習言語が入る文章問題になると意味を読み取ることが難しくなる。「割合」の学習では、非常に高度な学習言語が使用されている。そのため、学習言語の意味をしっかりと理解させ、説明等の数学的活動を通して、学習言語の活用・定着を図る。

3 目標

割合の意味について理解し、小数や百分率を用いて問題を処理することができる。

4 指導計画（14時間）

第1次 復習と準備…………… 1時間

第2次 割合…………… 4時間

第1時 第1用法を求める問題

第2時 全体と部分、部分と部分の割合を求める問題

第3時 第2用法を求める問題

第4時 第3用法を求める問題……………（本時）

第3次 百分率…………… 4時間

第1時 百分率の意味（第1用法）、小数と百分率の関係

第2時 百分率を使った問題

第3時 歩合

第4時 練習

第4次 割合のグラフ…………… 2時間

第1時 帯グラフ・円グラフのよみ方

第2時 資料を帯グラフ・円グラフに表すこと

第5次 割合を使って…………… 2時間

第1時 割合の和や差を考えて解決する問題

第2時 割合の積を考えて解決する問題

第6次 割合を使って…………… 1時間

第1時 基本のたしかめ、コラム「都市の緑化計画」

5 本時の目標

(1) 目標

くらべる量と割合を使って、もとにする量を求める。

(2) 日本語の目標

○2つの数量の関係を表す言葉を理解することができる。

・□の何倍

○3つの数量から何を求めるか説明することができる。

・「くらべる量」は○○で、「割合」は□□だから、「もとにする量」を求めます。

○ターゲットセンテンス

・○○の□□倍にあたりますか。

6 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	備考
<p>1 本時のめあてを知る。</p> <p>(1) 既習事項をふり返る。</p> <p>(2) 問題①の題意をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習事項のふり返りで、「割合」、「くらべる量」、「もとにする量」を確認する。</li> <li>・ 問題を読み、何が「割合」、「くらべる量」、「もとにする量」にあたるか考えさせ、何を求める問題か見通しを立たせる。</li> <li>・ 「もとにする量」に気づきにくい児童には、「定員」という言葉に着目させる。</li> </ul>	<p>・ 短冊</p>
<p>「割合」と「くらべる量」を使って「もとにする量」をもとめよう</p>		
<p>2 問題から答えを導き出す。</p> <p>(1) 「もとにする量」の求め方を考える。</p> <p>・ 「もとにする量」 = 「くらべる量」 ÷ 「割合」</p> <p>・ <math>24 \div 1.6 = 15</math></p> <p>・ それぞれの考えを発表する。</p> <p>3 適用題を解く。</p> <p>(1) 問題②の題意をつかむ。</p> <p>(2) 問題③の題意をつかむ。</p> <p>4 学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分かっている「割合」、「くらべる量」の2量を用いて「もとにする量」を求めることを伝える。</li> <li>・ 考えが進まない場合は、関係図や線分図を用いて3量の関係を視覚化させて考えを助ける。</li> <li>・ 未知数である「もとにする量」を□として図に記入し、より具体的に求める数を表すことで、「くらべる量」 ÷ 「割合」を想起させる。</li> <li>・ 考えを立式または、「割合」、「くらべる量」、「もとにする量」を用いた言葉の式で書かせる。</li> <li>・ 発表する際に「割合」、「くらべる量」、「もとにする量」を用いては発表することを伝える。</li> <li>・ 児童の発表をもとに「もとにする量」 = 「くらべる量」 ÷ 「割合」を導き出す。</li> <li>・ 「定員」というワードの無い問題を考えさせることで、3量は何にあたるか考えさせる。</li> <li>・ つまずく児童には、「市の人口の何倍」になりますか。という発問により、□の何倍になるか、3量は何になるか考えさせる。</li> <li>・ 類似問題を用いて、「□の何倍」になるということから、何が3量になり、何を求めるか考えることへの更なる定着につなげたい。</li> <li>・ 「□の何倍」から、何が3量になるのか。また、何の量を求めるのでどのような式になるのかをpushし、今後の学習へとつなげる。</li> </ul>	



# < JSL参照枠(全体)とDLA(4技能)の評価例 >

文部科学省 外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLAから

ステージ 学齢期の子どもの在籍学級参加との関係	DLA<話す>					DLA<<読む>					DLA<書く>					DLA<聴く>			支援の段階	日本語の学習段階	
	話の内容とまとまり	文・段落の質*	文法的正確度	語彙*	発音・流暢度*	話す態度	読解力	読書行動	音読行動*	語彙・漢字*	読書習慣・興味・態度	内容	構成*	文の質・正確度	語彙・漢字力	書字力・表記ルール*	書く態度	聴解力*			聴解行動
6	教科内容と関連したトピックについて理解し、積極的に授業に参加できる	<input type="checkbox"/> まとまった話が1人でできる <input type="checkbox"/> 年齢相応の教科学習語彙が使える <input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度が大変高い					<input type="checkbox"/> 文や意味のまとまりに区切りながら、流暢に読める <input type="checkbox"/> 年齢相応の語彙や漢字がよく理解できる					<input type="checkbox"/> まとまりのある作文が書ける <input type="checkbox"/> 効果的な段落が作れる <input type="checkbox"/> 表記上、正確度の高い文章が書ける					<input type="checkbox"/> 教師の話の内容の大筋と流れがよく理解できる			自律支援付き	教科につながる学習段階
5	教科内容と関連したトピックについて理解し、授業にある程度の支援を得て参加できる	<input type="checkbox"/> ある程度まとまった話ができる <input type="checkbox"/> 教科学習語彙がある程度使える <input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度が高い					<input type="checkbox"/> ややゆっくりではあるが、だいたい文や意味のまとまりに区切って読める <input type="checkbox"/> 年齢相応の語彙や漢字がある程度理解できる					<input type="checkbox"/> ある程度まとまりのある作文が書ける <input type="checkbox"/> 段落が作れる <input type="checkbox"/> 表記上、誤用が少ない文章が書ける					<input type="checkbox"/> 教師の話の内容の大筋と流れがある程度理解できる				
4	日常的なトピックについて理解し、学級活動にある程度参加できる	<input type="checkbox"/> 文を生成し、ある程度連文ができる <input type="checkbox"/> 日常語彙が使える <input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度がある					<input type="checkbox"/> 安定して文節や単語に区切って読める <input type="checkbox"/> 1つ下の年齢枠の語彙や漢字が理解できる					<input type="checkbox"/> 文と文をつなげて、流れのある作文が書ける <input type="checkbox"/> 表記上の誤用はあるが、意味は通じる文が書ける					<input type="checkbox"/> 身近な内容の話をして聞いて大体理解できる			個別学習支援段階	初期の後期段階
3	支援を得て、日常的なトピックについて理解し、学級活動にも部分的にある程度参加できる	<input type="checkbox"/> 単文レベルの応答ができる <input type="checkbox"/> 身近な日常語彙が使える <input type="checkbox"/> 流暢度が低い					<input type="checkbox"/> ゆっくりではあるがだいたい文節や単語に区切って読める <input type="checkbox"/> 支援を得て、2つ(または3つ)下の年齢枠の語彙や漢字がある程度理解できる					<input type="checkbox"/> テーマと関連がある複数の文が書ける <input type="checkbox"/> 文字・表記上の誤用が多い					<input type="checkbox"/> ごく短い身近な内容の話をして聞いて支援を得る程度理解できる				
2	支援を得て、学校生活に必要な日本語の習得が進む	<input type="checkbox"/> 二語文 <input type="checkbox"/> 基礎語彙が使える <input type="checkbox"/> 流暢さなし					<input type="checkbox"/> 文字習得が進む <input type="checkbox"/> 身の回りの語彙を聞く、または、読んで、理解できる					<input type="checkbox"/> 文を書こうとする <input type="checkbox"/> 表記ルールをある程度理解して文を書こうとする					評価対象外			初期支援段階	前期段階
1	学校生活に必要な日本語の習得が始まる。	<input type="checkbox"/> 一語文 <input type="checkbox"/> わずかな基礎語彙が使える <input type="checkbox"/> 流暢さなし					<input type="checkbox"/> 文字習得が始まる <input type="checkbox"/> 身の回りのよく知っている語彙を聞く、または、読んで、理解できる					<input type="checkbox"/> いくつかの関連する単語を並べることができる <input type="checkbox"/> 表記ルールについての理解が始まる									

(一年以内)

(6か月以内)